

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0572207827	
法人名	有限会社 湯の里	
事業所名	グループホーム 湯の里 【湯の里棟】	
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢199-70	
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成22年12月15日	

## 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

広く手入りの行届いた庭園で新緑とつつきを愛でながらの会食、秋は紅葉を楽しみながらたんぽ会、四季の移り変わりを感じながら他ホームの利用者、スタッフ、近所の方々と交流をしながら食事を楽しんでいる。  
 当事業者所は毎年、関連事業所(グループホーム5棟、小規模多機能型居宅介護事業所、ショートステイ)と合同運動会を実施している。利用者や家族、ボランティア、民生委員、来賓の方多数参加し交流を深めている。  
 自然豊かな温泉地に位置し、ホームにも温泉が引かれ利用者は毎日温泉浴を楽しんでいる。

## 外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

企業理念の他に事業所独自の「キャッチフレーズ」を掲げており、職員一人ひとりが目標を持ちながら理念の実現に向けている。なかでも保護者会の設立や運営推進会議の改善等については職員が一致団結して取り組んでいる。新興住宅地の中に立地しているが、事業所として近隣住民を巻き込む工夫をしており、非常災害時の協力体制を構築している。通院は、主に隣市(能代市)の医療機関に出向くことが多いが、時間を有効に活用しながら日々のケアを行う時間を確保している。終末ケアについては、事業所で「看取りに関する指針」のマニュアルを定め、入所の際家族に説明し、理解を得ている。

## .サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと動けている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- (Enter+)-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げており、スタッフが常に確認できるようになっている。	企業理念の他に、事業所独自のキャッチフレーズ「あかるくたのしくあたたかく」を掲げてホーム内に掲示し、スタッフが常時確認出来る様にしている。毎日のミーティング等々でその理念を共有し実践に? げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らされよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との行事や関わりに事業所も積極的に取り組んでいる。	事業所は新興住宅地内の一角にあり、町内自治会活動はあまり盛んではないが、行事に近隣住民を招待したり、地元の祭りには利用者全員が参加するなど、自然にとけ込めるよう工夫しながら交流の輪を広げている。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ボランティアや地域の方々に支援の方法を伝える機会がある。(行事等で)		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いで出た意見は、サービス向上に活かされている。	運営推進会議の開催を年2回から4回に増やしており、更に次年度からは年6回の開催を予定している。新規に保護者会を立ち上げて代表者に参加してもらい、その意見を会議に反映させている。	土日、祭日に開催する際は、各層からの出席を高めるための工夫をすることが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃からの関わりが多く、協力関係が築けている。	町の担当者が機会を見て気軽にホームに立ち寄り、コミュニケーションを深めている。日頃の密接な関係が事業所の運営や、より良いサービスの向上に? っている。	運営推進会議の開催日や参加率の現状を町担当者に伝えながら、会議への参加を含めた一層の協力関係を築いていくことも期待される。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。	日中は、リビング、玄関などを常時開放にしているほか、言葉の取り扱いに関する研修を行うなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず、身体拘束を行わなければならない場合には、家族の同意を得ることを申し合わせている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会があり、防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で学ぶ機会があり、いつでも活用できるよう体制ができています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が充分納得できるだけの説明、対応ができています。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で家族からの意見があるので、運営に反映している。	利用者との会話の中からさりげなく希望や意見等を引き出すようにしている。家族からは、面会時に備え付けの「家族との連絡簿」に意見や要望を記載するようにしている。提案されたことは各種会議で検討している。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や管理者会議で意見が出ることも多く代表者に伝えている。	管理者会議や職員会議、1日3回のミーティングの中で意見等を反映させている。異動については、利用者が不安定な状況になることを鑑み、極力小範囲に行なう等の提案を法人内で行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフがやりがいを持続けられるよう環境、条件の整備ができています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質を高めるための研修や勉強会が実施されている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の研修会、勉強会でスタッフ同士が交流する機会が多く、質を高める取組みができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が新しい環境に馴染むまで、スタッフ全員が本人の把握に努め、新たな関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望、希望を気軽にさせる雰囲気、関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者との一対一の関係を大事にしており、ホームで過ごす時間を支えていく考えで介護している。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とのつながりも大切にしながら本人の支援を行っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている</p>	<p>積極的に面会を受け入れ、外出や外泊などで気軽に出かけられるよう努めている。</p>	<p>家族や友人などがホームに面会に訪れることも多く、そのような機会を通じて利用者本人が培ってきた家族や社会との関係が途切れないように配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士がスムーズにコミュニケーションがとれるよう、スタッフが間に入り関係づくりを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用 (契約) が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設の入所や入院などホームで協力できる場所は、積極的に協力している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に沿えるよう本人をよく把握し、理解して提供できるよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。特に、入浴支援の際にはさりげなく引き出すようにしており、これを全職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの情報を提供してもらったり、家族や本人から聞き取りし把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を常にスタッフ全員が把握しており、変化にすぐ対応できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今の本人に必要なサービスをスタッフ全員で話し合い、家族にも了解いただいて介護計画を作成している。	検討会議を開催し、本人の変化や家族の要望等に応じて、都度見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成し、職員間で情報を共有していることを確認した。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を細かく記録し、変化や計画の見直しに活かせるよう情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人に必要な地域資源の確保に努めながら、生活を楽しくしてもらえるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望の病院を受診し、定期的に医療を受けられるよう支援している。	利用者全員が通院しており、付き添いを職員が行っている。歯科通院は近くの病院に向くが、他科については隣市まで通院している。調剤薬局の協力を得て、薬を事業所に届けてもらうなどの工夫をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護へ利用者の状態を伝えたり、スタッフへアドバイスをいただき、状態の把握につとめている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との関係づくりができており、情報交換や相談がいつでもできるようになっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来ることを家族へ伝えており、理解していただいで、ホームで出来ることを支援している。	取り組んだ事例はないが、事業所で「看取りに関する指針」のマニュアルを定めており、これを入所の際、家族に説明し、理解を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身に付けるために定期的に研修、訓練を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を通して、全スタッフが身につけることができている。	消防署、近隣住民、社会福祉協議会の協力を得て総合防災訓練を実施している。また、町内自治会においても、理解を得られた住民から訓練への協力を得ている。消防署へ直通の火災報知機の設置に向けて準備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には、十分気をつけるよう心がけている。	利用者への接し方については、言葉による暴力などで利用者の尊厳や誇りを損なうことのないよう 事業所全体で心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな場面で本人の思いや希望を大切にしており、スタッフが働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせず、利用者の状態にあわせて対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者本人の好みを取入れたたり、その人らしさがでる身だしなみを心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しくなるよう準備や片付け等も手伝ってもらっている。	職員は利用者と一緒に、献立の食材を隣町のスーパーまで買い出しに出掛けている。食材を見ながら、利用者の希望があれば献立を変更することもある。調理や準備、後片づけは利用者も可能な限り参加している。栄養面については、法人内や協力病院の栄養士から協力を得ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を常に把握し、適量が確保できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行い、排泄のリズム作りを行っている。	利用者個々の状態に即した誘導を心がけ、リハビリパンツや尿取りパットが取れることを目標にしている。夜間、頻繁にトイレに通う利用者についても、本人の自発性を尊重してトイレを利用してもらっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動、薬の内服などで排便のリズムを作っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日も、その日の流れにあわせて変更しながら行っている。	ホーム内に天然温泉が引かれている。基本的に、ユニットごとに入浴日を決めているが、いつでも入浴を楽しめる体制にある。温泉により、利用者の気分転換が図られ、癒し効果も見られる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよ眠れるよう支援している	ゆっくりと休める環境作り、本人の状態に合わせた対応を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての知識を得るため、スタッフ全員が確認し合っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみや好みを把握しており、楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	地域行事にも積極的に参加し、いくらでも外出できる機会を作っている。	利用者の希望を可能な限り取り入れている。招待された小学校の運動会、学芸会等には積極的に参加している。季節ごとに、バラ園(井川町)、エナジウムパーク(能代市)、菜の花ロード(大湯村)等に出かけるなど、外出の機会を多くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には持っていていただく。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたたり、手紙を出すなど支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激 (音、臭い、光、色、広さ、温度など) がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通して、楽しく、居心地よく過ごせるよう、ホーム内の整備を行っている。	定期的にテーブルの草花や壁画の模様替えがなされ、採光が明るい共用ホールから和・洋の庭園を望むことができる。廊下、風呂場、洗濯場等は整然と整理されており、心地良い清潔感を与えている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	日あたりの良い窓辺の椅子を利用して、思い思いに過ごせるようにできている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使い慣れたものや馴染みのある物を持ってきてもらっている。	居室名を「湯の里」というネーミングにして、利用者が親しみやすいような工夫をしている。また、温泉床暖房が設置されるなど、安全にも配慮している。居室には使い慣れた家具や思い出の品々が持ち込まれ、住み慣れたたたずまいが醸し出されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	はり紙や置き物で、本人が一人でもできるような工夫し環境作りを行っている。		